

～ 長崎市 日吉いちご部会 いわめご ともひろ 岩目後智宏さん ～

今回紹介する岩目後智宏さん（22歳）は、長崎市日吉地区でいちご19aを経営する若く意欲ある新規就農者です。

実家は農家ではありませんが、親戚にいちご栽培をされている方がいたため、作業を手伝ううちに、自分でいちごを栽培したいと思い、県立農業大学校に進学され、令和3年4月に就農されました。

部会員の皆さんからの支援もあり、中古のいちごハウスを借用して、令和3年9月に定植を行い、11月から初出荷を行いました。

現在、2作目を収穫しましたが、部会の先輩方や農協の技術的な支援を受けて、部会の平均以上の出荷量、品質を確保しています。

日吉地区特有の急傾斜地に建てられた複数のハウスは、1棟1棟が狭く決して好条件ではありませんが、「やる気と根性」で、いちごのスペシャリストを目指し、今日も昼夜を問わず頑張っています。



いわめご ともひろ  
岩目後 智宏さん

第23回全国びわ研究協議会が長崎県で開催

協議会テーマを『「きばろうで!! 未来へとつながる産地づくり」～考えようびわ産地の現状～』と題して、令和5年3月9日（木）～10日（金）に長崎市および大村市において、全国びわ研究協議会が開催され、全国のびわ生産者や関係機関等およそ250名が参加されました。研究協議会はおおむね3年に1度、全国のびわ産地で開催され、長崎県での開催は2010年以来となります。

1日目は、長崎びわ生産コンソーシアムのスマート農業実証事業で取り組んだ、無料通信ができる気象観測装置を活用した収穫時期、出荷量の予測やドローンによる収穫物の運搬・防除、糖度や果実腐敗の判定ができるスマート選果機等の「びわ産地におけるスマート農業技術の実証」の講演や、気象災害の事前、事後の管理対策についての講演がありました。パネルディスカッションでは「災害に負けず、びわ産地を未来につなげよう!」と題して生産者、市場、研究機関等の方々が意見を述べ、会場と質疑応答等を行いました。

最後に、協議会決議として4項目を提案し、承認されました。

2日目は長崎市内の「なつたより」の優良園地や簡易ハウス園、ハウスびわ団地等の視察、ドローンによるデモ散布やスマート選果機の実演が行われました。その後、大村市の農林技術開発センター果樹・茶研究部門において研究の紹介や圃場視察が行われました。



開会宣言をされる濱口実行委員長

びわ講座受講生募集

- 対 象：長崎市在住または長崎市に移住を希望する人  
びわ経営の新規就農希望者、産地の後継者、びわ栽培に興味がある人
- 時 期：令和5年9月～令和6年6月（予定）
- 場 所：長崎市茂木地区
- 内 容：びわ栽培管理作業に合わせて6回程度の実技と座学
- 問合せ：JA長崎せいひ南部営農経済センター（長崎びわ産地活性化推進協議会）  
☎0957-47-5586

